

業務部速報

No. 20

発行 14. 9. 11

JR東労組 業務部

申22号 「北陸新幹線金沢開業」に向けた緊急申し入れ団体交渉

交渉冒頭 「北陸新幹線金沢開業に関する概要について」提案を受け、議論スタート!

◇プレス発表の判断:通常はダイヤ改正時。今施策は注目度が高く一定の方向性が出た時点で決まり発表した。

◇プレス発表の時期:必ず半年前と言うことではないが、全体を考えた上で時期を判断した。

◇新幹線運行ダイヤ:運行計画はJR 東日本が決めていく。鉄道事業者が判断すべき事柄

第1項 北陸新幹線金沢延伸にあたっては、信義誠実の原則に従い従来同様施策実施までの過程を継承し、労使協議を尽くした上で実施すること。

関係する地本管内で働く組合員のために、施策に労使が責任をもち「信義誠実の原則」に則り議論することを確認

第2項 北陸新幹線金沢延伸の実施スケジュールを明らかにすること。

第3項 経営分離に伴い移管される業務および異常時における業務執行体制を明らかにすること。

開業に向けての進捗状況

設備関係: 建設工事は終了。運輸機構の総合検査 → JR が受け取り → 国交省の完成検査を行う

運行関係: COSMOS の中央制御の切替え完了後、運行管理が出来るようになる。12月から訓練

営業関係: 上越妙高駅(新駅) 3/14にオープン。飯山駅は11/9に移転。移転のためバス代行運転

要員体制: 新幹線運行計画が決定後、乗降見込みを同じような規模の駅の状況を見て判断。

教育体制: 運行計画と作業ダイヤが決まり次第教育スケジュールを決めていく。

北陸営業センター(VTS): 現在の6名体制を維持し、観光開発を自治体と調整していく。

【運行体系】JR東日本が中心となって運行計画を設定

■担当乗務員区と担当区間

担当乗務員区=東京~長野間は現在担当の乗務員区。長野総合運輸区は上越妙高駅まで乗務できる訓練をする。乗継ぎ箇所は長野

■相互乗り入れの課題

取扱い(実施基準、ブロック図)はJR 東日本に合わせていく。車内改札システムはJR 東日本のみ扱いとなる

■上越新幹線の輸送体制

想定される輸送量に合わせて検討していく。現在の上越新幹線(たにがわ)は、高崎始発等の使命があるので踏襲していく

■車両検修業務関係

長野総合車両センターの役割は開業時点で変更なし。W7系の検査はJR 西日本(白山総合車両所)にて行いE7系は東日本で行う

【経営分離後の業務体制】並行在来線の経営がうまくいくように協力要請あれば支援していく

■駅関係

直江津駅~妙高高原駅間は「えちごときめき鉄道」に業務移管

長野駅~妙高高原駅間は「しなの鉄道」に業務移管

■設備関係

直江津メンテナンスセンター廃止→柏崎に保線技術センターを設置

新潟電力技セ、新潟信号通信技セ、新潟土木技セの直江津各MC→柏崎に拠点を整備する

■運輸関係

直江津運輸区は廃止→長岡運輸区へ業務移管し担当する

出向や業務移管に関する教育は充分に行うことを確認

労使確認メモを遵守し、施策を実施させよう!!